

■ 2021年度 入試問題分析シート ■

慶應義塾大学

商学部

科目	数学
----	----

総括

試験時間	70分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	100点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

難しかった昨年に比べれば軽くなっていたが、文系入試の数学としてはレベルが高い。昨年とは変わって典型問題ばかり並んでいるが、それでも試験会場では難しく見えるかもしれない。昨年はIの小問が5つに増えたが、今年は一昨年よりもさらに少ない2つになっている。

〈特記事項・トピックス〉

出題されている分野はいずれも過去の頻出分野であるが、三角関数とベクトルについては、Ⅲ(i)で表面的に顔を出すだけである。例年の数列は漸化式などパターンに当てはめて解く問題が多いが、今年は数列ならではの法則・構造を考える問題である。

〈合格への学習対策〉

全問がマーク式と空所補充で占められるが、適度の思考力と計算力は要するので、記述式対策と同様に途中をきちんと考察・論述する学習が望まれる。今年は昨年の反動からか、比較的解きやすい問題が並んでいるが、例年は作業量の多い煩雑な出題もされるので、普段から根気強く最後まで解き切るようにしておくことが肝要である。また、年によっては細かい内容や発展事項が問われることもあるので、幅広く学ぶ姿勢も身につけておこう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I (i)	マーク式	II	対数	対数方程式を解く。	標準
(ii)	マーク式	II	微分法, 積分法	2つの放物線が接する条件, 面積を求める。	標準
II	空所補充	A	確率	取り出した色の玉を補充する操作の確率。	標準
III	マーク式	II, B	ベクトル, 微分法	初めにベクトルの内積から $\sin \theta$ を求める以外はベクトルを全く使わず, 図形的考察から三角形の面積を式で表し, 微分して増減を調べる問題である。	標準
IV	マーク式	B	数列	ある法則で格子点に割り当てられた等差数列の項を求め, その和の最小値を求める。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。